

台風7号災害

被害の爪痕深く

台風7号による記録的な大雨の影響で、市内で土砂崩れや浸水など大きな被害が発生しました。被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

平成30年7月豪雨に次ぐ被害

台風7号は、8月14日夜遅くから15日未明にかけて局地的に激しい雨をもたらした。物部町などでは犀川やその支流が越水し浸水被害が集中。このほか、市内北西部を中心に広い範囲で土砂崩れが相次ぎました。

市災害対策本部がまとめた市内の主な被害状況（8月31日現在）は、人的被害はなく▽住家被害11一部損壊3棟、床上浸水31棟、床下浸水100棟、土砂流入5件▽道路90カ所▽河川91カ所▽農地・農業用施設418カ所―などで、近年では平成30年7月豪雨災害に次ぐ被害規模となっています。市は被害実態を踏まえ、一日も早い

復旧・復興に努めるとともに、台風シーズンに入り二次災害防止への対応にも取り組めます。

ボランティアが復旧の大きな力に

市災害ボランティアセンターが8月18日、物部営農指導センター（物部町）に開設され、ボランティアによる復旧活動が始まりました。台風7号の通過後、初めての週末となった19日は、市民や市消防団、市内企業の従業員ら164人が集まったほか、20日には何北中学校の生徒と保護者、教員26人も参加。21日からボランティアの募集対象が市外に広がると、関東地方など遠方からも駆け付け、18～31日までに延べ1234人が被災した住民の支援にあたりました。

タイムライン活用し早期避難実現

府北部に爪痕を残した今回の台風7号。大雨に見舞われたのは、台風本体が本州に上陸する前でした。近年頻発する集中豪雨は、いつどこで起こるか予測が難しい上、状況が短時間で急激に変化します。市は災害時の「逃げ遅れ」を

防ぐため、自治会単位で誰が「いつ」「どう動くか」を時系列で一覧化した計画「避難行動タイムライン」の作成を支援してきました。今回の台風では、物部町の下市自治会がタイムラインを活用し、住民の早期避難につなげました。

状況が悪化する前に早めの避難を

災害の規模が大きいほど、国・府・市による「公助」がすぐには行き届きません。被害を最小限に抑えるには、自分で身を守る「自助」とお互いに助け合う「共助」が不可欠です。台風シーズンは続きます。今一度、家庭や地域で▽危険箇所▽避難経路や避難場所▽防災グッズ―などを確認し、災害の危険が高まるまでに早めの避難を心掛けましょう。



住宅にたまった泥を土のう袋に入れて片付ける何北中学校の生徒ら



敷地に流れ込んだ土砂をバケツリレーや一輪車で撤去するボランティアと消防団員

復旧・復興支援(8月受付分) ありがとうございます

《災害ボラセンに》

支援物資(タオル、軍手等) 12件

《綾部市に》

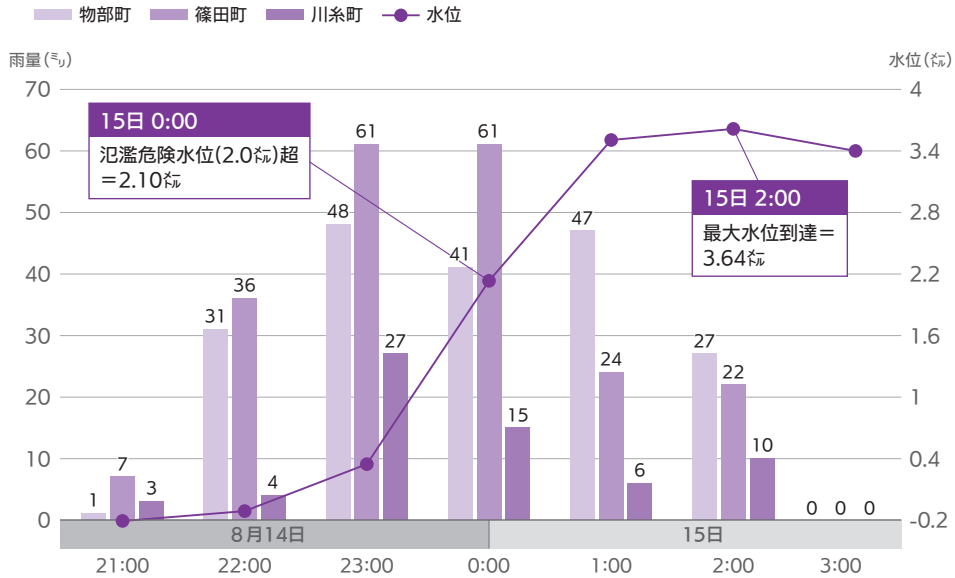
ふるさと納税 62件561,000円

寄付金等 9件1,170,300円

支援物資(飲料水) 1件

時間雨量と犀川の水位

※京都府河川防災情報のホームページを基に作成



1 浸水した住宅から救助する消防団員(物部町) 2 濁流で削られた道路(内久井町) 3 倒壊した小屋(同町) 4 道路へ流入する土砂(西方町) 5 斜面が崩落(五津合町)

綾部子ども探偵調査報告

梅原杏椰 探偵

「いろんなバラを見つけたよ！」



いろいろなバラがある中で、アンネのバラという種類があります。アンネという人の名前が付けられています。バラ以外の花もあり、草でデザインしたアニメのキャラクターもいました。

佐藤謙悟 探偵

「スイカ割りをしたよ」



スイカ割りをしました。いつものスイカよりおいしかったです。その後、野球チームのマークを書いた（木でできた）名札作りや木輪グーをしました。来年もまた参加したいです。

大槻龍ノ介 探偵

「木輪グーをした」



里山交流研修センターの森もりホールで木輪グーをしました。男女に分かれて7回対戦しました。木輪グーとは、カーリングを木で作った競技で、平らなところで行います。中心の赤が100点です。

中村建登 探偵

「バラ園の発見」



展望台の上ってバラ園を見渡しました。上から見て花壇の並びに意味があるんじゃないかと思いました。（花壇の）真ん中に行くと世界連邦のマークであることに気がきました。少し驚きました。

永山結音 探偵

「足が痛い川遊び」



川遊びが良かったです。いろいろな魚がいて捕まえようとしたけど魚の動きが速すぎて捕まえられませんでした。挟み撃ちして触れただけで滑って無理でした。

荻野杏奈 探偵

「風の通る道は気持ちがいい」



バラ園が印象に残りました。（風の通る道は）看板のとおり本当だったからすごいと思ったし不思議だと思いました。風が通って気持ちが良かったです。妹にも教えてあげたいです。

幹田初美 探偵

「金色のコイがいました」



（コイに）光が当たって金色に光っていました。いろいろなコイがいました。田んぼにたくさんコイがいて、スイミーみたいに黒色が少しと赤色がたくさんありました。

水田景 探偵

「古墳について調べた」



私はなぜ鑑に土がかかっていたのか聞いてみたら1,600年前に鑑があって、土に埋もれていたと職員さんが教えてくださいました。資料館に行って昔のことがよく分かりました。

山室ななみ 探偵

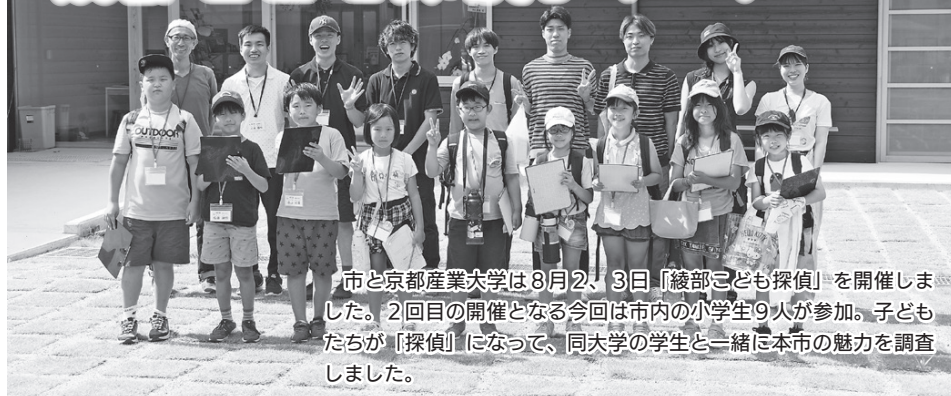
「きれいだったよ、バラ園!!」



展望台の上ってバラ園全体を上から見ました。いろいろなバラがあっただけだと思いましたが、中でも紫色のバラが一番きれいでした。アンネのバラのことは初めて知りました。

夏休み特別企画

綾部子ども探偵レポート



市と京都産業大学は8月2、3日「綾部子ども探偵」を開催しました。2回目の開催となる今回は市内の小学生9人が参加。子どもたちが「探偵」になって、同大学の学生と一緒に本市の魅力を調査しました。



スイカ割りで大盛り上がり



楮（和紙の原料）の説明を聞く



アンネのバラを見学



調査結果報告



土器に触れる体験



コイ養殖場を見学

動画を公開中!

当日の様子を市公式YouTubeで紹介しています。

動画の視聴は、QRコードを読み取るか、YouTubeで「綾部子ども探偵」と検索してください。



あるもの探して故郷に愛着を
本市の市域は広く、自分が住んでいる地区の外へ「遊び」に行く機会は多くありません。しかし、少し離れた地域に出かけてみると、皆が気付いていない「遊べる場所」が多い本市。黒谷和紙会館前の黒谷川での川遊びや里山交流研修センターでの木製玩具を使った遊びを通じて、探偵や助手は綾部を満喫していました。

同大学現代社会学部の滋野教授は「無い物ねだり」から「あるもの探し」という言葉がある。良いところに目を向けるといろいろな発見がある。発見を積み重ねることと今自分が住んでいるところの見え方が変わってくる」と探偵に伝え、調査を締めくくりました。

スを受け、報告書を書き無事完成。発表では、それぞれの探偵が感じた綾部の魅力を伝え、誇らしげな顔を見せました。

綾部の魅力をいろいろ発見
この企画は、本市の魅力を子どもたちが調べて発表することで、市の魅力発信と郷土愛を育むことを目的に開催しています。今回探偵として参加したのは、梅原杏椰さん（豊里小4年）、大槻龍ノ介君（綾部小4年）、佐藤謙悟君（同）、中村建登君（同）、永山結音君（同）、荻野杏奈さん（中筋小3年）、幹田初美さん（吉美小3年）、水田景さん（西八田小3年）、山室ななみさん（東八田小3年）の9人。京都産業大学現代社会学部の学生8人が「助手」として調査をサポートしました。

初日は▽綾部バラ園（青野町）▽黒谷和紙会館（黒谷町）▽里山交流研修センター（鍛冶屋町）▽コイの養殖場（小畑町）▽資料館（里町）の5カ所を巡回し調査。施設を見学したり、川遊びや工作などの体験をしたりしながら綾部の魅力を探りました。

2日目は、報告書作成と発表です。初日は打って変わり、探偵たちは、前日に感じた楽しさや学びを文章にまとめることに苦戦します。助手の大学生から、文章の書き方や表現方法などのアドバイ